



米商進路だより

令和4年4月18日発行
山形県立米沢商業高等学校
進路指導部（第2号）

《 本格的な学校の始まり 》

先週は朝晩の冷え込みが再び厳しくなる日がありましたが週末の陽気で桜が満開になりました。本校校門前の桜も登校するときに見守ってくれていますが、米沢市大町にある妙圓寺（渋谷文具前）の一本桜は見事です。登下校のときに目にする人もいるのかもしれませんが、桜並木街道とは一味違った満開の雰囲気がとても好きで、帰り道に見惚れてしまうのです。

さて、先週進路希望調査用紙を配付しました。進路を決めるにあたって進学か就職か悩んでいる人もいるはずですが、その悩みを一緒に考える機会（キャリアガイダンス）を確保しましたが、進路について向き合うことができましたか。本校に入学したときに「夢」や「希望」を持っていた人がたくさんいます。それを実現させるための方法を考えて努力をしなければならないのです。

一般論で話をします。高卒と大卒では選べる仕事に差があります。それは、専門的な仕事（医師・薬剤師・弁護士や検事・教職員・保健師）などの職種に絞って就職したいなら、大学で専門的なことを学んで資格や免許を取得することが必要であるといえます。しかし、高卒の場合には、自ら望んでいる仕事（事務職・技能職）であれば高い確率で内定をもらうことができるのです。



《 学力の三要素 》

①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む学ぶ態度

ところで、皆さんは学力の三要素という言葉を知っていますか???入試区分では「学力の三要素」がより重視され、どの入試区分でもバランス良く評価する入学試験に変更されました。その結果、学校推薦型選抜では「小論文・面接」だけだったのが、学力を測るため「大学入学共通テスト」を取り入れたり、高校での取り組み（活動報告⇒課題研究の学習内容等）を主体的に評価するようになったのです。

1年生からは観点別評価が導入されるようになりました。既に中学校でも導入されていたので、理解をしている人が多くいると思いますが、定期テストの成績だけでなく、小テスト、提出物、発表等の項目を設けて、そのことについて評価をしていくことになるのです。特に、主体的に学習に取り組む態度の評価については、私たち教職員も改めて勉強しなければならないことだと感じています。

《 卒業生からの近況報告 》

本日より、本校卒業生の近況を報告いたします。現在大学3年生であり、大学卒業後は商業科の教員になることが目標であり、通常のカリキュラムの他に教職課程を履修して勉学に励んでいます。高校生活において取り組んできたことが大学生になっても活かされていることが記載されており嬉しく思います。参考になる部分が大いにあると思いますので是非読んでみて下さい。

私は、高校生のときにチャンスがあるものに全てチャレンジしました。検定は積極的に受験し、全商1級4種目の他に、漢検・英検準2級、日商3級を取得しました。また、2年生の頃に、生徒会役員選挙で風紀委員長に立候補し、3年生の時には風紀委員長を務めました。

3年生の夏には、担任の先生からの勧めで「やまがたイノベーションキャンプ」に友人と参加し、県で3位を受賞することができました。部活動では、小倉百人一首かるた部に所属し、成績を残すことができました。これらの出来事全てを大学生活で生かすことができます。私は教職課程を履修しているということもあり、自分の高校生活について振り返る機会が多くあります。その際に、自分が高校生活で得たものに自信を持つことができるため、高校生のときにチャンスがあれば、是非全てにチャレンジするべきだと実感しています。

他にも、提出期限を守ることや、自分の納得のいく内容をかけるようになることも大切だと思います。大学生になると、提出期限が数分でも遅れてしまえば受け取ってもらえないことがほとんどです。また、単にレポートや課題を提出すれば良いだけではなく、質問に沿った回答ができているかが重要です。中身が十分でなければ納得のいく評定はもらえません。高校生のうちに、これらを習慣化しておくことで、大学生活に生かすことができると思います。

大学1年生の時は、全てオンライン授業だったため、私も1年間実家から授業を受けていました。2年生になり、大学で受講する対面の授業が始まったことで、初めて大学の友達と顔を合わせることができました。私は、教職課程を履修しているため、一緒に教職課程を履修している友達が沢山できました。同じ目標を持っている友達と授業を履修しているため、お互いにモチベーションを保ちながら授業に参加することができています。沢山友達ができることが、大学生活の中で一番楽しいと感じる事です。

また、2年生から、ゼミが始まりました。私が高校生の時、大学にゼミがあるということは知っていましたが、どのような仕組みなのか全く想像することができませんでした。ゼミは、先生によって得意分野があるため、自分が興味のあるゼミを選ぶ必要があります。私は、教職課程を履修しているため、教育について深く学ぶことができるゼミを選択し、学習しています。今、私のゼミでは本を要約・考察し、自分で資料を作り、発表するという授業をしています。授業のために、沢山の時間をかけて準備をし、本番に備えます。準備はとても大変です。ですがその分、発表がうまくいったとき、友人や先生に褒められたときはとてもやりがいを感じます。

校内に「顔晴ろう」という掲示物が貼付されています。校長先生の言葉であり、掲示物を見るたびに元気と勇気が出てきますが皆さんはどうか。校長室前には、校長先生が発行している「チーム米商」のおたよりが掲載されていて、前を通るたびに全てを読んでしまいます。情報社会によってデジタル化は一層進んでいますが、文字という活字は学校文化には欠かせないツールだと思っています。